

# 天井

今回の言葉物語は「天井」をテーマ

にします。前回お話しした「宵越し」という言葉と密接な関係を持ち、主にスロットで使われる言葉です。一言で言う

と「一定のゲーム数や条件を消化すると発動する遊技者に対する救済措置機能」となります。遊技者にとっては、天井の存在を知っていれば、精神的な負担が和らぐありがたい機能ですが、この存在を知らない人は救済機能発動前に遊技を止めてしまうケースもあり、「ハイエナ」と呼ばれる天井狙いのユーザーを助けている側面もあります。

現在パチスロでは、「北斗の拳」「押忍! 番長」など多くの機械に、この天井の

システムが装備されています。ここでは趣向を変えてパチンコに焦点を当ててみたいと思います。

## 興味引いた 「春夏秋冬」

もっぱらパチスロ用語のようになっていくこの言葉ですが、

実はCR機が登場する前まではパチンコにも使われていた言葉でもあります。代表的なものと言えば「春夏秋冬」が真っ先に浮かんで来る方も多いのではないのでしょうか。

内部では3つのモード「天国(大当り確率1/10)・通常(同1/210)・地獄(同1/420)」があり、大当り毎に一定の確率でモードが移行します。また朝一電源オン後、リーチが外れると1/5で天国モードへ移行するという機能があるだけでなく、地獄モードでリーチが40回外れると強制的に天国モードへ移行するという天井機能があり、現在とは全く異なるシステムを搭載していました(通常モードの場合は248回リーチハズレで移行)。

それ故に、周りの台の状況を観察していれば効率良く大当りを引く事が出来るという事から多くのパチプロが打つ台の一つとなり、島の中は独特の雰囲気を持っていました。

勿論これらの機能はその後認められなくなりりましたが、その後当時の規定を活用して類似した機能を持った「CRやすしきよし」シリーズ等の変則スペック機が登場しました。

この機種は大当りと確率変動大当りの確率をほぼ同等(通常約1/237

数々の攻略法を生み出した「春夏秋冬」



確率変動を活用した新機能を搭載した「CRやすしきよし」



©吉本興業/TOYOMARU

↓確変時1/232)に設定する事で時短回数を最大555回まで引き伸ばし、更に天井機能として大当り間回転数が555回転を超えた場合は次の大当り後に555回の時短が付くという事で、はまった分の救済に近い状況を作った新機能でした。これら天井に類似した機能を付加した機種はこの他にも登場しておりますが、残念ながら市民権を得て市場が拡大する事はありませんでした。

## 「独立試行」が本来の姿

ここまで読まれたパチンコユーザーの方はお分かりのように、これらの機種は普段何気なく打っているパチンコの基本からは大きく離れている印象を受けると思います。それはパチンコの重要なポイントである「いつ何時においても同一の条件下にて分け隔て無く独立試行にて抽選を行う」というパチンコの本質とは離れた違和感であると

思います。先に紹介した春夏秋冬は当然ながら電源オン直後になる朝一で打てばチャンスになりまし(これはここで紹介

していない網取物語等も同様、CRやすしきよしの場合でも555回転以上はまっている台を選べば2回以上の大当りが受けられやすくなります。勿論その当時においてはその時代の然るべき検査を経て世に出た遊技機ではあったのですが、時代や市民および業界の倫理観は常に変化するものである事は周知の通りです。常に平等でクリアな抽選過程を経る事が出来るから、ユーザーは何時如何なる状況であっても気軽にパチンコで遊べるのではないのでしょうか。

数多くの機種が乱立する中で複雑なゲーム性を好まれる方も確かにいるかと思えますが、分かりやすいゲーム性に戻した機種が息長く稼働している事実も確かにあります。即ち大衆娯楽として「敷居の低さ」というのは決して忘れてはいけないものの一つなのだなと改めて思いました。(大和田敏男)

パチンコにもありました